

環境科学アドバイザー養成講座資料

第七教科資料

【生命の仕組みと健康⑤】

- 生命力と健康 …P2
- 体は環境により左右される…P
- 病気の原因は？…P
- 体を治す前に環境を治せ！ …P5

付随資料

- ◆ 夢の健康エネルギーをとりいれた生体活性化システム
- ◆ 人間の本質と肉体と心のしくみ
- ◆ 生体エネルギーの流れ

■人間は自然生命エネルギーによって生かしている

肉体も心も生命エネルギーによって活動する

私たちの体は食事しないと動かなくなりますが、心臓や肺は生まれてから死ぬまで片時も休むことなく活躍し、その他の内臓諸器官も本人の意思とは関係なしに動いています。

人間は生命体です。

生命体とは【生体】と呼ばれる肉体組織と、【命体】と呼ばれる命から成り立っています。これが【生命体】と呼ばれる由縁です。

細胞で造られたロボットとしての肉体を動かす原動力が生命エネルギーです。

食べ物は、生まれ変わる全ての細胞を維持し続ける為に体内に摂取され続けます。その消化の過程で生まれる熱エネルギーが手足の運動エネルギーとして使われます。従って長時間食べないでいると、お腹が空いて動けなくなります。さらには、内臓諸器官も機能が失われて死に至ります。

しかし通常、心臓や肺やその他の内臓諸器官を動かしているエネルギーのことを【生命エネルギー】と言います。

この生命エネルギーの量が何れだけ体内にあるかによって、その人の【生命力】が決まります。

人はこの生命力によって内臓の強さや行動力や、感情、創造力、その他感性や精神力まで決まってきます。

では、このエネルギーとは何なのでしょう？

このエネルギーは大自然の中や、生活環境の中に存在しています。

従って、自然破壊や汚染、生活環境の汚染によって人間は生命力を失っていきます。

生命力の低下は免疫力の低下に繋がり癌や病気に侵されやすくなってゆきます。さらには、感情面や精神面にも影響を及ぼしてゆきます。

この生命エネルギーについては事項で解説します。

■ 人体の原動力となる生体電磁気エネルギー

細胞と内臓とチャクラを活動させる自然生命エネルギー

無限の水素元素で満たされた宇宙は緩やかな回転運動を続けながら拡大しています。

回転する中で、その水素元素も自転しながら磁気を帯び、融合してより質量の高い元素に生まれ変わって行きます。

それらの質量の高い元素同士が引き合い、やがて原始地球が創造されて行きました。

巨大な重力や引力、回転エネルギーの作用で、地球は地表を被う二酸化ケイ素の土や岩石の他に、より質量の高い鉄やニッケル等の重金属へと進化し、やがて火の神と呼ばれるウランウム元素が誕生しました。

宇宙空間にはこうした活動をさせている宇宙エネルギーが存在しています。

銀河の渦巻き、太陽の回りを惑星を公転させたり、地球を自転させるエネルギーには、飛ばそうとする電氣的なエネルギーと、引寄せようとする引力と呼ばれる磁気エネルギーが作用して、バランスを保たせています。

地球の密度が高度に達した時、そこにはより強力なこうしたエネルギーが生まれ、大気中の水素や炭素や酸素等の元素を有機結合させるまでになります。

やがて、樹木の誕生を持ってそれは極まり、有機的機能を持った人間の肉体を誕生させるまでになりました。

このエネルギーは宇宙を回転させる巨大な電磁気エネルギーから、人体のミクロの細胞内原子や心臓や肺を絶え間なく活動させている微量な電磁気エネルギーまで多岐に渡っています。

一般の動力や照明に使われる電磁気エネルギーを【電磁波】と呼んでいます。

そして、高性能で超エコシステムに造られた人体を活動させている電磁気エネルギーを【生体電磁気エネルギー】と言います。

細胞を構成している一億分の一センチと言われる原子も、内部ではプラスイオンの陽子と中性子が核融合によって原子核を構成し、その原子核の回りをマイナス

イオンの電子が回転しながら存在しています。
やはりここにも微量な電気エネルギーと磁気エネルギーが作用して超高速回転しています。

こうした原子が何十兆と集まって百分の一～二ミリの細胞を構成しています。
また細胞の中には、細胞核を始め遺伝子や沢山の有機体が存在しています。

この二重螺旋のDNAの中にも、一方には生体電気エネルギーが流れ、もう一方には反対方向から生体磁気エネルギーが流れ、DNA内をスパークしながら生命活動のバイブレーションを生み出して、細胞一つ一つを生命体として存在させています。

この細胞が、心臓を始めとする各内臓諸器官や骨格から筋肉、そして神経や血液まで人体のあらゆる部分を造り上げています。

全ての内臓諸器官を絶え間なく活動させている生体電気エネルギーは、背柱を通して各内臓諸器官に送られています。

この際、大気内に存在する生体電気エネルギーは脳天から背柱を左回転しながら降りて大地に入ります。

一方の大地から発生している生体磁気エネルギーは尾てい骨から入り、右回転しながら脳天に抜けていきます。

この生体電磁気エネルギーが自律神経を伝わり心臓を動かし、呼吸を司っています。

生体電気エネルギーが血液を送り出すと、生体磁気エネルギーが心臓に呼び戻します。

息を吐き出す力と吸い込む力も常にこうした陰陽のバランスで成り立っています。

従って、背筋がピンと姿勢良く張っているときが最もエネルギーが入りやすく健康的です。

エネルギーの低いときは背中が丸まっています。

樹木も、こうした仕組みで天地の自然生命エネルギーである生体電磁気エネルギーの働きによって生命活動し成長しています。

常に直立不動で高い霊性を持つ針葉樹の大樹は数百年から数千年生き続けます。

■あらゆる地上の生命は、こうして天地の自然生命エネルギーの恵みを受けて生かされています。

樹木と違って人間や動物は、絶えず水や食糧を自分で確保しなくてはならず、常に危険や争い等の緊張やストレス状態に置かれているため、疲れや病に陥り易く寿命も短いのです。

■現在では自然破壊と環境汚染によって生活空間からこうした生体電磁気エネルギー等の自然生命エネルギーが損なわれて来ているため、生命力や免疫力が低下し、多くの生命体が絶滅の危険にさらされ、人類も健康や生活、社会活動が混乱状態に陥っています。

人間の持つ生命力、感情力、決断行動力、そして創造力や直感力、感性や精神性等の各能力を造り出すチャクラのエネルギーラインも、この生体電磁気エネルギーの量によって決まります。

さらには、人間の肉体や感情、精神や魂意識のエネルギー量を現すオーラも、やはりこの生体電磁気エネルギーの量によって決まるのです。

したがって、自然生命エネルギーの枯渇した空間でのヨガや瞑想によるチャクラやオーラの向上には限界があります。

■こうした人間の生命の仕組みと自然生命エネルギーの原理を応用したものが、世界 10ヶ国の特許を取得した癒しの住まい【生体活性化住宅】であり、さらに集中強化させたものが【生命磁場強化装置(低温遠赤外線サウナ)】や、生体電磁気エネルギーを共振増幅させている大黒柱と生命磁場強化装置を融合させた【生命磁場共鳴装置】、そして家庭向けの【岩盤浴特別強化ベッド】や【えびす柱電磁気融合エネルギーシステム】です。

生命エネルギーの枯渇した生活空間に、強力な生体電磁気エネルギーや遠赤外線自然生命エネルギー磁場をつくり、低下した生命力や免疫力を回復向上させるシステムなのです。

生命力や免疫力の向上が病気や癌を寄せ付けず、豊かな心と、閃きや創造力に溢れた積極的な人生をつくるのです。

努力だけでは人間の本質は機能されず開花しません。

■ 体温と生命

体温は健康のバロメーター

よく『体温を上げれば病気は治る』と言われる。

しかし、体温を上げたから病気が治るのではなく、正しくは体内の細胞内原子の活動が安定して、内臓諸器官の機能も正常で健康な状態の時の肉体から放射されている熱エネルギーが体温として計測されるのです。

したがって、体温を上げれば病気は治ると言っているのは、健康になれば病気は治ると言っているのと変わりありません。

病院で毎日体温を計るのはその時の健康状態を確認するためです。

何故、病気になるのか？

何故、病気になって体温が下がるのか？

その事を理解することが病気の予防と改善の最善策なのです。

これまで書いてきたように、人間の肉体はその殆んどが水素や炭素や酸素といった地球の大気元素で構成されています。

銀河宇宙の回転運航によって太陽系が公転し、さらに地球が自転しています。この自転のリズムに反応して大気元素が超高速でスピンしながらエネルギーを放射し、磁気エネルギーを高めて結合して有機生命体を形勢しています。

この地球の1年間で365回転するリズムが、人間の体温の正常値である36.5度となっています。

この運航の流れより速くても遅くても、肉体のリズムは狂います。速ければ体温は上がり、遅ければ体温は下がります。

質量の軽い大気元素と極微量のミネラル元素が結合し、干渉しあって人体の中核諸器官や内臓諸器官や神経が組織され、天地自然の生命エネルギーによる超エコシステムによって活動し機能しています。

健全な状態でこれ等の全組織が活動している時、体内細胞は36.5度という体温、つまり熱エネルギーを維持して体外に放射しています。

では、如何にして低体温が起きるのか？

原因は3つあります。

1つは肉体の意識体である感情機能による原因です。

これは、精神的な刺激やショックによって人体の諸器官に影響を与え機能を停滞させるために起きる一時的な原因です。

しかし、持続すれば何等かの病気の元となります。

もう一つは、自然環境における自然生命エネルギーの低下です。

自然破壊や大気や土地、河川の汚染によって、生体電磁気エネルギーが低下するためです。

そして、3つ目は生活環境における影響です。

化学製品である新建材や無機質な新建材等の化学物質の乱用と、年々増加する電磁波環境です。

最も軽量で静かな元素である人体の構成元素は、質量の高い化学物質や電磁波によって大きく干渉されて機能障害を起こします。

自然環境のエネルギー低下や、何等かの人体における機能障害があれば体温は自動的に低下します。

さらに、これ等の3つの原因は複雑に絡みあって作用します。

つまり、自然や生活環境におけるエネルギー低下は、人間の内臓諸器官ばかりでなく、感情障害も引き起こします。

そして、感情エネルギーの低下は人体に影響を与えるといった悪循環を引き起こします。

したがって、『体温を上げれば病気は治る』と言うほど容易容ないことではありません。

しかし、自然生命エネルギーを向上させれば人体の諸器官や諸機能、そして感情面も回復して体温は人体の正常を知らせます。

つまり、最も人体に近い生活環境を改善し豊かにすることで、肉体の病気も、精神面の病気も回復するのです。

人体や生命に影響を与えている環境を放置したままで、薬や手術に頼る医療を続けても根本的な解決にはなりません。

そこで提唱するのが【環境医学】です。

つまり、生活環境を改善し生命エネルギーを向上させることで、生命力や免疫力が向上し健康回復が実現でき、しかも生命力の向上が人生も豊かにするからです。

こうした環境と健康の関連性を把握するために、幅広い事象を計測出来る磁場共鳴装置を使った【波動測定装置】による計測によって確認を行っています。

健康かどうかの体温測定と違い、積極的な健康環境と健康づくりを行っています。

■ マイナスイオンと健康

生命元素のバランスを司るマイナスイオン

マイナスイオンや遠赤外線は健康に良いと言われています。
しかし、マイナスイオンと健康、遠赤外線と健康の理論はあまりありません。

病気や治療の理論は山ほどありますが人間の肉体の真の仕組みや生命理論はあまりないのです。

こうした学問や理論があれば、人間の生命を理解することも病気を防ぐことも正しく改善することも可能です。

しかし、人間を創ったものが人間でないが故に、人間は一番身近な自分自身のことが何一つ分からないのです。

この生命の仕組みとはこれまでの物理学分野や化学分野や生物学分野、そして医学分野等の各一面から見のではなく、人体とはこれ等の全てを包括しています。そして、大自然や宇宙から一時も絶え間なく生命エネルギーを受けながら生かされています。

さらに、その肉体に納まり肉体と感情意識を操り人生を営む魂としての人間の実相本体があります。

これまで、肉体を構成する物質としての最小単位である元素や原子の話をしてきましたが、水素や炭素や酸素等の元素を構成するものが素粒子としての陽子や電子、中性子と呼ばれるミクロのエネルギー体でありそれらの活動現象がマイナスイオンやプラスイオンです。

つまり酸素には中性子と結合して原子核を構成する 8 個の陽イオンの陽子があり、この原子核の回りを回る陰イオンの電子があります。

この電子は自転する地球の電気エネルギーに反応して原子核の回りを回転し、このマイナスとプラスの電気反応で元素は質量を持ち原子エネルギーを造り出しています。

このエネルギーが人間の体温であり肉体を支える生体エネルギーです。

では何故、原子核の回りをマイナスの電極を持つ電子が超高速回転できるのでしょうか。

太陽の回りを地球を含む幾つもの惑星が自転し、地球の回りを月が回るように、原子核と電子の間には引き合うエネルギーが作用しています。

太陽と惑星間に働くエネルギーのことを引力と言い、原子核と電子の引き合うエネルギーを磁気エネルギーといいます。

このエネルギーは鉄やニッケル質の地殻や、二酸化ケイ素質の土や岩石の大地から出ています。

つまりミネラル質の地球が宇宙の電場を自転のすることで地球の磁性が高まるのです。

しかし、環境破壊や汚染によって地球の磁性、つまり生命をコントロールしているエネルギーが低下し、大気中の酸素ばかりでなく肉体の炭素や酸素元素内に働く磁気エネルギーも低下します。

つまり、炭素には 6 個、酸素には 8 個のマイナスイオンの電子が回転しながら 36 度 5 分と言う体温としての熱エネルギーを発生し生命を活動機能させているのです。

地球や生活環境の磁気エネルギーが低下することで、原子核と電子のエネルギーバランスが損なわれ、一つのマイナスイオンを持つ電子が離れてしまい体温が 35 度 5 分となります。

つまり、人体の膨大な細胞の活力が低下し、健康が損なわれるのです。

このため、マイナスイオンが人間の健康に関係があるということになります。

しかし、マイナスイオンが健康に良くプラスイオンが健康の敵と言うことではないのです。磁気力の低下で細胞内元素からマイナスイオンの電子が欠落してプラスイオン化することに問題があるのです。

また、海岸や滝のまわり、シャワー等はマイナスイオンが沢山あると言われるのは、大気中の元素のなかでは酸素が最も多くのマイナスイオンを持つために、二酸化水素の水分の多い場所は最もマイナスイオンが多いと言うことになりますが、決してそれが健康に良いわけではありません。

湿気が多いと言うことにもなり長時間居れば病気の原因となります。

■かつて、生体活性化住宅やシステムを取り入れたマイナスイオン測定や化学物質測定を実施したことがあります。

健康に最も関わりの深い小イオンの測定では、健康に良い森の中のイオンの数値がマイナスやプラスイオンとも 500 前後でした。

生体活性化住宅内が 400～450、一般住宅が 70～150 でした。

ところが、加湿器を始動させるとマイナスイオンとプラスイオンとも 4,000 にはね上がりました。

さらに、病院内で放射線を放射した瞬間は 25,000 にもなったのです。

つまり、放射能をだすウランは 1 個の元素の中に 92 個ものマイナスイオン、プラスイオンの電子や陽子を持つ最も質量の高い元素であるためです。

強力な熱エネルギーを出すため強力な放射線を受けると、人体は被曝して細胞内元素が急激な回転をして発熱して焼けただれます。

人間の生命は森の中と同じ波動を持っています。

マイナスイオンとプラスイオンの真実を理解することも、健康を理解する大切な事柄です。

■遠赤外線と健康

生命をコントロールする陰陽の遠赤外線エネルギー

人間の健康についての言葉の中にマイナスイオンと同様に使われる言葉が【遠赤外線】です。

その遠赤外線の対極にあるのが紫外線です。

癌などを引き起こす紫外線は別名殺人光線とも呼ばれ、健康に良い遠赤外線は育成光線とも呼ばれます。

地上の大自然の生命を育成している太陽からは赤外線や遠赤外線の生命を育成するエネルギーと同時に、殺人光線である紫外線も大量に放射されています。

では何故生命体は死滅しないのでしょうか。

それは地球を覆う大気層は大量の酸素の層でもあるためです。

特に酸素密度の高い層をオゾン層と言います。

さらに酸素質の地球からは高い磁気エネルギーが放出されています。

遠赤外線のエネルギー体である酸素で構成されるオゾン層や、地球から放出される磁気エネルギーは、太陽からの同じ波長の遠赤外線エネルギーは吸収しますが、同調しない紫外線エネルギーは跳ね返すか、遠赤外線に転換させて地上に吸収します。

現在、大量の二酸化炭素放出問題で危惧されるのが、このオゾン層が崩壊し希薄になったり、オゾンホールが出来て地上により多くの紫外線が注がれ、発癌性が高くなったり、生命体の生存に影響するためです。

地球の環境破壊や汚染によって地球自体から放出される磁気エネルギーも低下し、さらには宇宙の変動によって太陽のエネルギー変化から異常なフレアが吹き上げられたりして、大量のプラスイオンの放出や紫外線の影響によって地上のエネルギーバランスに影響を及ぼすことも懸念されます。

こうしたことは、気候変動や天変地変にも大きく影響します。

■さてそれでは、その遠赤外線エネルギーとは何でしょうか？

全ての物質は固有のエネルギーを放射しています。

現在、問題となっているものが原子力問題です。

物質を構成する全ての元素は、原子としてのエネルギー活動をして固有の力を放っています。

最も質量が高く強いエネルギーを放射する物質がウラニウムです。
ウラニウムからは強い紫外線やガンマー線が放出されます。

これを核融合させ不安定な活性エネルギーに進化させたものが、さらに質量の高くなったプルトニウムであり、原子力利用されるエネルギー体です。
不安定で強いエネルギーを放射し続けるため、今回のように水での制御が切れた時には瞬時に溶解を起こし、核分裂して 多くの放射性物質となって放出されます。

では何故これ等の放射性物質や放射線が人体に危険なのでしょう。

■この紫外線やガンマー線などの対極に存在するのが生命エネルギーであり、育成光線とめ言われる【遠赤外線】なのです。

宇宙空間を構成する大本の元素が国生神話で【天之御中主神】と言われる水素元素です。

水素元素は核を持たず陽子一つと電子一つの熱も光も持たない存在のため宇宙空間は冷たい暗黒の世界です。

静かに回転する宇宙空間の中でこの水素元素が核融合しながら次々と新しい元素になって行きます。

この新しい元素が生まれることを【成りませる神】と言います。

新しい元素の誕生を【神々の誕生】と言い、五代までは姿を現さない只のエネルギー体であることから五番目の元素までを【隠れ身の神】と言い、五番目のホウ素のことを【天常立之神】と言います。

つまり、天にあって地上に姿を現さない存在であると表現したのです。

次に誕生した原子番号六番目の元素が炭素元素です

そして、始めに地上に姿を表したことから【現れ身の神】と言い、【国常立之神】と呼んだのです。

この段階で物質化が始まり、二酸化ケイ素の岩石や鉄などの金属元素、そして最後に生まれたのが【火之神】と呼ばれたウラニウム元素のことであり、こうして、九二の元素が生まれ地球が完成したことから、これを【クニ(国)生み神話】と言います。

この【火之神】に人類が手を付けて、やがて核戦争へと発展して滅亡した人類の繁栄と終末の歴史があります。

■さて、この炭素元素こそ我々人類と動植物等の有機生命体を作り出した元素であり、この炭素元素のソフトなエネルギーの波長を【遠赤外線】と呼びます。この炭素元素は色々な元素を結びつけて複雑な有機生命体を作り出す貴重な存在です。炭素の単体で構成される物質が最も硬い物質と言われるダイヤモンドや、炭素の炭です。

炭素から窒素に発展し、さらに融合され【酸素元素】が誕生します。

この酸素元素もやはり遠赤外線の波長を持つエネルギー体です。

つまり、人体は宇宙空間を構成する大本の水素元素が 49,7%と炭素元素と酸素元素が其々24,9%の合わせて 99, 5%で構成され、多くの地上のミネラル元素 0, 5%という微妙なバランスで造られています。

非常に精密な構造と機能を持たせるために、ほとんど大気中の元素で【神】は人間の肉体を創ったのです。

人間の作るロボットのように金属で作れば放射能やウイルスや病気の心配も要りませんが、巨大化して繊細さに欠けたものになります。

さて、水素と炭素と酸素で作られた肉体は、水素と酸素を合わせると約 75%の水分となります。

また、原子番号 1 と 6 と 8 で構成されることから人間や動植物等の自然界の世界を 168(いろは)の波動の世界とも言います。

■炭素と酸素は全く違う性質を持つ元素です。炭素は電気エネルギーに反応し電氣的性質を持ち、酸素は磁性を持ち磁気エネルギーに反応します。従って、炭素元素の波動を陽性の遠赤外線、酸素元素の波動を陰性の遠赤外線と仮定して使っています。

つまり、常に生命は陰陽二元の働きで構成され生命活動が行われています。

しかし、生命元素でありながら結合しあって一酸化炭素や二酸化炭素となると、生命にとって非常に危険物質となり、人間が疲労したり老化したりするときは、体は酸化して行きます。

鉄などが酸化することを錆びると言い、動植物等の有機物が酸化することを腐ると言います。

つまり、酸化を防ぐことが病気や老化を防ぐことになります。

そして、酸化を防ぐ力が遠赤外線の仕事でもあります。

遠赤外線のエネルギーが人間の体温であり、遠赤外線の放出が低下すると体温が下がり、免疫力や生命力が低下し身体機能や精神面に影響が出ます。

逆に遠赤外線の波動が上がると体温が正常になり、体は健康で元気になり若返ります。

■また、紫外線や放射線や電磁波や化学物質が人体に多大な危険を及ぼすのは、人体を構成する質量の軽い炭素や酸素の遠赤外線エネルギーが非常にソフトで他の質量の高い物質の持つエネルギーに影響を受けやすいためです。

従って、化学物質や酸化する大気汚染や電磁波環境によって、生活環境から人体を支え活動させる遠赤外線生命エネルギーが枯渇して行くことから、現在の日本人の癌や病気や精神障害の原因となっています。

一方、山や森の中に入ると人体や生活環境における遠赤外線量より遥かに大きな遠赤外線が樹木や大地から放出されているため、体が楽になり元気になります。

■健康エネルギーシステムとして世界の特許を取得した【生体活性化システム】とは、この樹木をさらに炭に変えて陽性の遠赤外線のエネルギーを強化させ、陰性の遠赤外線エネルギーの高く、酸素量が多い岩石(天然セラミックス)を使って、生活環境を改善強化したり、人体の遠赤外線量を高めて体温を上げたりして免疫力や生命力を向上させて、健康回復や人生を豊かにさせるためのシステムなのです。

■ 生命力と健康

人生を豊かにする生命力

【生命力】とは肉体の諸機能を健康状態に保つのと同時に、心を豊かにし、チャクラとして表現される生きる為の諸能力を高める力です。

生命力が低下すると免疫力も低下して病気に対する抵抗力も下がり、心も不安定になります。

そして、チャクラとしての諸能力である生命エネルギーセンターの能力低下、感情面の不安定、決断や行動力や忍耐力の低下、心の不安定、創造力や受容力の低下、直感力の低下、感性や精神性の衰えに繋がっていきます。

最終的には肉体のエネルギー低下が、人間の本質であり実相である魂の意識がうすれ、孤独な肉体意識での人生を過ごすことになります。

また、逆に生命力が向上すると免疫力も向上して病気に対する抵抗力も上がり、心も安定します。

そして、生命エネルギーセンターの能力は向上し、心配や不安やストレスは減り満足感や充実感、自信が湧き、決断や行動力や忍耐力が高まり、心も平和になります。さらに、創造力や受容力、直感力も高まります。そして、感性や精神性も豊かになります。

そして、『健全な肉体に健全な精神が宿る』如く、人生の主役である魂の意識が目覚め、人生も肉体も理解して豊かな人生航路を旅することが出来ます。

まさに、【生命力】とは人間の生存力は基より生きる為のあらゆる能力をサポートする力です。

車で言ったら排気量のようなものです。

使用する燃料の量によって、その車の馬力や能力が高くなって行きます。

■では、その【生命力】の源とは何か？

これ迄記述してきた通り大自然の持つ自然生命エネルギーであるマイナスイオンや遠赤外線や生体電磁気エネルギーが、人間の肉体や心や数々の能力をコントロールしているエネルギーです。

かつて、人間の生活環境は自然の中から取り入れられた遠赤外線の木材や石材や土等で作られ、燃料も遠赤外線の薪や炭などが使われて来ました。さらに、現在のように化学製品や電磁波製品が大量に使われることはありませんでした。

これほど物質的に豊かでなかった時代、今より恵まれた自然環境と生活環境で過ごし、豊かな魂を抱いた人生を生き抜いて来ました。故に、かつて偉大な人物や傑出した人物が数多く輩出しました。

こうした環境を取り戻し、利便性のある物質生活を両立させるためにつくられたのが【生体活性化システム】です。

我々の豊かな人生を約束するものが健康と豊かな生命力であり、生命力を生み出す自然生命エネルギーです。

■ 体は環境によって左右される

環境づくりが健康づくり

これ迄述べてきたように物質として存在している肉体も、天地大自然も、全ての実相は目で見えないエネルギー体であります。

従って、全ての物質は其々のエネルギーが干渉しあい、共鳴共振しあい、また融合したり分離したりしながら存在しています。

片時と言えども同じ状態ではないのです。

従って人間の肉体も絶えず周りの影響を受けて変化し、人間の生命活動そのものも周りの環境エネルギーによって動かされています。

そして、その時の生命エネルギーの状態によって人間の心の動きも変わります。

さらには、人間の魂とその魂の意識も変化するのです。

つまり、人間は環境によって、その肉体も心も、魂とその意識も変わると言うことは人間の日々の生活や人生にとって、住まいや生活環境は極めて大事です。

特に大気汚染や自然破壊によって自然環境が崩壊して行く今、身の回りの生活環境を改善強化して行くことが大切です。

■ 病気の原因は？

病気の原因を知ることが健康回復への第一歩！

病気の原因は地上の生命体の生命を維持している自然環境における自然生命エネルギーの低下と、生活環境における化学物質と電磁波です。

前項でも述べた通り自然環境と生命は常に共鳴共存しています。故に自然界におけるエネルギー低下は人間の肉体の存在と生命機能の活動に大きな影響を及ぼします。

さらに、現在最も危険なのが住まいや生活環境における化学製品や化学物質や電磁波の氾濫です。

自然と住まいと人体が同じ原子構造とエネルギーであった頃、自然も豊かでした。そして、豊かな環境の中で人は豊かな肉体と豊かな感性と精神性をもって暮らしていました。

科学技術の発展と共に自然破壊と環境汚染が進み、生体に負担となる化学製品や、電磁波を発生する電子機器が氾濫し、その事によって人間は肉体の生命機能のバランスを失い、さらには心や精神面が損なわれてきて、家庭生活や社会生活にも支障をきたし、混乱を生じています。

これ迄、肉体の存在と自然生命エネルギーとの関係を詳しく解説してきました。さらには、生活環境における化学製品や化学物質と電磁波の人体への影響も述べてきました。

では、具体的にはどのくらいの健康への影響があるのでしょうか。福島第1原発事故の影響で多くの日本人が放射能や放射性物質に対する大変な危機感を抱きました。

そして、周辺市町村の避難騒ぎと、農作物への危機感を引き起こしました。

しかし、多くの人には実際には何れくらいの発ガン性や健康被害があり、これ迄の環境との違いや比較など分かるよしもなく、まして今の生活環境がそれ以上の危険性のあることなど全く知られていないのが現実です。

福島第1原発の事故の放射能汚染による健康障害の報告は殆んど聞かれないのに、事故以前から発がん率は急速に高まり、病気疾患や精神障害は増加し、

新型コロナウイルスの発生も増えています。

福島原発周辺のセシウムによる発がん率や健康障害指数より、全国の畑や水田、また住環境や生活環境における発がん率や健康障害の方がはるかに影響率が高いのです。

農作物も僅かなセシウムが検出されなければ安全と思われていますが、農地に数十年間に渡って使用され蓄積されてきた農薬や化学肥料の堆積に対する検出検査は行われていません。

これには今度の福島原発事故のセシウムの数十倍もの化学物質の健康への影響が測定されます。

お米から野菜までこれ等の農薬や化学肥料を吸い上げて高い発ガン性やストレス度が測定されています。

故に、防護服や防毒マスクなしで福島第1原発や第2原発周辺の放射能検査や土壌実験を行い、高濃度汚染指定の飯舘村長泥地区での農地活性化事業が行えるのです。

農地にはこうした農薬や化学肥料の他に中国からの大量の大気汚染物質や、地球規模の酸性雨等が影響しています。

生野菜が健康に良いと言うのは昔の話です。

水耕栽培でない限り無農薬栽培はありません。

また、福島第1原発周辺の放射能の発ガン性に匹敵するのがタバコや建築に使われるコンクリートです。

さらに、それ以上の発ガン性を持つのが電子レンジやパソコン、携帯電話、テレビ等の電気製品や電子機器です。

自動車エンジンの電磁波もパソコン並みで、電子レンジよりも高い発ガン性があります。

これらは全て末期癌に匹敵する発ガン性があり原発の放射能をはるかに上回ります。

電車や新幹線や飛行機も発ガン性が高いです。

また、現在の住環境は化学製品の新建材が乱用されており、発ガン性も初期癌の反応があり、化学物質症候群やアトピーや喘息の原因にもなり、防腐剤や白蟻駆除薬品等はさらに劇薬です。

大気汚染や化学物質や電磁波等、生体に悪影響を及ぼす要因が複合的に絡み合って大きな健康障害を引き起こしています。

そして、環境による肉体型への負担は感情面や精神面に及び、『病は気から』の如く、悩みや人間関係等に影響を及ぼし、二次的な病気の要因になります。

身近な生活環境における環境対策や改善が、家庭や健康を守り、人間関係や人生を豊かにして行く為に急務とされます。

■ 体を治す前に環境を治せ！

体が病気でなく環境が病気です

大自然の中にいる時、人は快適な体と気分を感じます。
反面、新建材や電磁波だらけの環境に居ると息苦しさを感ずります。

そして、長時間こうした環境に居ると、やがて体調を崩します。
それが高じると病になってゆきます。

それは、こうした環境内には内臓諸器官を活動させたり細胞自体の活力を維持している生命エネルギーが乏しく、化学物質や電磁波の波動が細胞に刺激を与え続けることで、内臓諸器官の活動や機能が停滞したり、免疫力が低下するためです。

ゆえに、こうした病気の原因となる環境を放置したままで、薬物治療や手術をすることはさらに細胞の免疫力を低下させたり、細胞組織の機能障害をきたすこととなります。

こうした環境を改善し生命エネルギー磁場を強化することで、治療を最低限に抑えたり、健康を回復させることが出来、さらには、生命力を強化させて豊かな人生を実現させて行く糧にもなります。

全ての物質や現象は目で見えない原子のエネルギー運動で存在し、干渉しあって存在しています。

人間の肉体の 99,75%は宇宙空間を満たす水素元素と、大気中の炭素と酸素で構成されています。

炭素も酸素も、非常に軽い遠赤外線と呼ばれる波長を持ったエネルギー体です。

従って、酸素の大地と炭素の樹木で覆われた山や森林に入ると、エネルギーが共鳴を起こして、爽快感を味わうことが出来て元気になるのです。

こうした、土や木で作られた昔の住まいは、やはり遠赤外線の波動を持ち大自然と人間を共鳴させており、人間の肉体も精神も豊かにし、心身とも優れたかつての日本人を育てて来ました。

やがて、生活環境が人間の肉体と異なる、質量の高い化学物質や新建材に変わり、遠赤外線の細胞を攪乱させる電磁波に取り囲まれた環境に変わることによって、自然生命エネルギーは枯れ細胞も細胞組織も変調をきたすこととなります。

こうした生活環境に、大量の高質量の陰陽の遠赤外線物質である天然セラミックスや炭素資材を取り入れたものが【生体活性化システム】であり、世界の特許を取得した【生体活性化住宅】です。

現在の健康障害や精神障害を改善させる根本的な解決は、こうした生活環境の改善と環境対策です。

自然生命エネルギー環境を作り出すことで、エネルギー体である細胞も細胞組織も生命力を回復させ、人間の肉体も心も精神も、その機能や能力を最大限に発揮することが出来ます。